

## JR東労組青年部

# 「全青年部員総対話行動」を実施！！

2023年1月 職場討議資料

会社の主張する「声」とは誰の声？私たちが感じている現実をもとに「出せるものも出さない」経営姿勢を正すため、JR東労組に結集しよう！

2022年度の年末手当は、「基準内賃金の2.4ヶ月+2万円」でした。会社は、年末手当交渉の中で「声は受け止める」「今の状況がいいとは思っていない」としながらも、①見通しが不透明である②状況は楽観視できない③有利子負債が1兆円増加していることなどを理由に、私たちの要求とは大きくかけ離れた回答を出しました。

### 【会社の主張】

物価上昇などの社会情勢も「総合的に」勘案している。コロナ禍における社員の尽力について、支給月額の「枠の範囲」に思いを込めて判断した。

若手の離職対策も含まれている。社員のさらなるチャレンジに期待！

その結果が... **2.4ヶ月+2万円**

組合員、社員の声を「受け止めたうえで」の最大限の回答だ！

また、交渉の中では、現在役員報酬の自主返納は行っていないことも明らかになりました。

### <単体決算の比較>

会社発当財	純利益	期末手当 (年間)
1987年度	274億円	4.9ヶ月
東日本大震災発生後	771億円	5.38ヶ月
2011年度		
コロナ禍	591億円	4.0ヶ月
2021年度		
2022年度	※410億円 (予想)	4.7ヶ月+2万円 (予想)

※2022年度の第四半期決算時点で、単体で301億円の純利益を生み出しています。

会社は、交渉の中で「楽観視できない」「第二四半期決算は、予想に届かなかった」と述べていますが、業績の下方修正は行っていません。このことについて「楽観視できないが、これは高い目標をクリアしていくという会社の姿勢をあらわしたものである」ということを主張しています。

目標達成に向けて「もっと頑張れ」ということか！？期待だけされても還元がなければ、モチベーションはあがらない！

JR東労組青年部

← 討議資料を活用！

JR東労組青年部では、**23春闘要求満額回答を勝ち取るため、「全青年部員総対話行動」を実施しました。**(期間：12月19日～2月6日)  
**最終集約は全青年部員の80%の集約となりました。**総対話では、今の会社姿勢について、労働実感・生活実感についてなど、多くの声をいただきました。皆様のご協力に感謝を致します。総対話でいただいた声を一部紹介します。↓

- ・本来業務を行いながら柔軟な働き方に適応し、多くの業務に取り組んでいる！
- ・これだけ働いているのに賃金が上がらないのか！
- ・コロナ感染への不安を抱えながら業務を遂行し、黒字にも貢献してきた！
- ・生活に関わる全てのモノの値段が上がっている！
- ・節約も限界、もう減らせるところがない！
- ・社友会意見交換会で、一律1000円～3000円とか出されていたらしいが、何を基準にその数字を出してんだ！
- ・社友会は交渉もしていないのに勝手に決めるな！
- ・これくらいなら出ると思って社友会はやっているのか！

**全青年部員で要求満額回答を勝ち取ろう！！**

